令和6年度　学校自己評価書（様式）

鈴鹿市立長太小学校

NO.

評価項目	本年度の活動（具体的な手立て）と指標	成果と課題	今後の改善点	学校関係者評価
学力向上×ＩＣＴ活用	基礎学力の定着と授業改善 【わかる・できる・伸びる喜びが味わえる授業】 ・自分の思いや考えを的確な言葉で伝え合い、受け止め、理解し合える授業づくり ☛一人１回の公開授業 ・効果的なＩＣＴ機器の活用 （より効果的な授業づくりや家庭学習の充実に向けて） ☛家庭学習時間の増加 ・家庭や地域と連携した読書活動 ☛読書時間の増加 ⇒児童アンケートによる検証	○学調は全国平均、みえｽﾀは4･5年生とも県平均を上回ることができた。 ○校内での一人１回の公開授業を実施し、よりよい授業づくりに研修を積むことができた。 ⇒「学校の授業はよくわかる」90.9％ ⇒「授業中、先生の話や友だちの意見をしっかり聞いている」94.0％ ⇒「授業でわからないことを友だちに聞くことができる」86.3％ ○ICT機器を活用し“わかりやすい授業”作りのために活用することができた。⇒「ｸﾛｰﾑﾌﾞｯｸを使った授業は楽しく、わかりやすい」91.8％ ●“自分の思いや考えを伝え合う”手段として、ICT機器の活用にはさらなる改善の余地がある。 ●読書、家庭学習については、家庭との連携を深めた取組が必要。 ⇒「本を読むことが好きである」68.7％　「毎日本を読んでいる」51.9％ ⇒「家で学年×10分ぐらいの勉強をしている」（宿題含む）82.0％	・更なる授業改善（鈴鹿市の目指す複線型）に取り組み、主体的に学ぶこどもの育成に取り組む。 ・学年の実態に応じたＩＣＴ機器の活用を見直し、効果的な活用を考え、学校としてのカリキュラムを構築する。 ・来年度も一人１回の公開授業の実施し自らの授業づくりに役立てる機会とする。 ・家庭学習の定着のためにも、個々の生活習慣等の把握に努め、効果的な宿題（質や量）や授業と連動した宿題等を考えていく。	・子どもたちの授業への集中は、先生方の授業準備によるもの。 ・あらゆる授業を通して、読解力を高めることが大切である。 ・「学校の授業はよくわかる」の肯定的回答が91％というのは外国籍児童の多いことも考えるとすごいことである。先生方の努力の賜と言える。 ・「毎日本を読んでいる」が50％を越えているのも実にすごいことだと思う。 ・先生方には引き続き「わかりやすい授業」「クロムブックを使った楽しい授業」をお願いしたいです。 ・クロムブックを使って読書習慣を身につけることはできないのでしょうか。（他１名） ・わかる授業づくりのために先生方の創意工夫が感じられる。 ・情報機器の操作には、十分注意しなければ危うい状態に陥る可能性もあり、小学生は素直なところがあり、偏らないように注意する必要がある。 ・ICT機器の活用は、今後さらに重きがおかれると思います。先生方の負担も増えるでしょうが、より効果的なものにしてください。一方で、文字を書くことも大切だと思うのでそういう時間も残してほしいなと思います。 ・「一人１回の公開授業」という高い指標を掲げ、見事に達成された成果が児童アンケートに現れていると思います。先生方の一致団結した取組を大いに評価します。 ・家庭学習の少ない児童の原因はどこにあるのでしょうか。本人以外の家庭環境などの課題があるのであれば、そこを補うような取組について家庭以外の居場所づくりを検討してはどうでしょうか。放課後の自由学習時間（学習支援ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱの協力）や放課後子ども教室（まちづくり協議会＆公民館）の実施など、地域づくり協議会や公民館ともっと協働できればいいなと思います。 ・ICT機器の利用によって学習に対する意欲、理解度が上がることは良いこと。 ・ネットモラルについても繰り返し繰り返し学ぶ機会を。 ・デジタル教科書の更なる普及を。これによって忘れ物やランドセルの重さ問題も改善されるのでは。
長期欠席対策	・子ども支援シートを活用し、定期的な支援会議の開催 ・自己肯定感を高める取組（綴り方） ・多くの教職員で児童に関わる体制づくりと情報共有を図る。 ・家庭、関係機関との連携を図る。 ・特別支援教育の研修の充実を図る。 （学期に１回実施） ⇒児童アンケートによる検証	○長期欠席の未然防止のために子ども支援シートを作成し、情報を共有するとともに、支援会議では支援の手立てを考え、組織的に取組を図ることができた。 ○ｽｸｰﾙｶｳﾝｾﾗｰやｽｸｰﾙﾗｲﾌｻﾎﾟｰﾀｰ、外部機関と連携をして取組を進めることができた。 ○綴り方や学校行事等を通して、子ども同士をつなげることを意識した取組を全校で取り組むことができた。 ○職員会議では必ず児童の情報交換を行う。また、日頃から児童の情報を共有できる職場環境作りに努めることができた。 ○特別支援教育に関わる研修を特支Coを中心に行い、特別支援教育の視点を大切にする意識を高めることにつながった。 ●「学校に来るのは楽しい」88.9％であったが95％以上を目指す。 ●長期欠席児童が昨年同月と比較すると１名増加した。[6名→7名] ●特別支援教育の研修を講師を招聘したり、長期休業中に行われる研修会への積極的な参加を促していく。	・これまで同様、学年を問わず、子どもの情報を共有するという職員室の雰囲気づくりに努め、教職員みんなで子どもたちを見ていくという意識を高めていく。 ・次年度も綴り方に取り組み、クラスの子どもたちを繋ぐということに取り組んでいく。 ・子ども支援シートを活用するとともに、ｽｸｰﾙｶｳﾝｾﾗｰやｽｸｰﾙﾗｲﾌｻﾎﾟｰﾀｰ、外部機関と連携して取組を進めていく。 ・特別支援教育の視点を大切にし、研修等に積極的に参加していく。	・居心地のよい学校、学級づくり。（集団づくり、わかる授業づくり、校内居場所づくり等） ・家庭訪問等で子ども、家庭とのつながりを深める。 ・子どもには学校での顔、家庭での顔といろいろな顔がある。そして、それぞれの家庭にはそれぞれの事情があり、外からは伺い知れない部分がある。なので先生方も苦労がある。このような現状で「綴り方」は有効である。継続して取り組んでほしい。 ・子どもたちが困った時、いつでも相談できる環境を引き続き作っていただきたいと思います。 ・学校に来るのが楽しいと感じられる環境づくりのために先生方が尽力されている様子がうかがえました。 ・長期欠席には様々な要素があると思いますが、家庭、地域、学校で子どもの頑張りを認める、そしてほめることが大切であると思います。 ・子どもにとっても保護者にとっても先生は心の拠り所だと思います。いろいろ難しい事もありますが、これからも寄り添っていただきたいです。 ・多くの先生に見守ってもらえるのは小規模校の良いところだと思います。次年度も継続を。 ・日頃から児童の情報を共有できる職場環境づくりは、子どもにとって大きな安心につながっていると思います。長期欠席の原因を的確に把握することは難しいですが、引き続き関係機関との連携に努め、早期対応を心掛けていただきたいと思います。 ・特別支援教育の視点は全ての子どもに適した支援につながります。子どもの成育歴や家庭の状況については外部機関と連携を取りながら情報収集をしていただき、途切れのない支援につなげていただきたいです。 ・「学校に来ることが自分のためになる」「いじめや不安に思うことを素直に相談できる」と子ども自身が思える「頼れる場所」になることが求められると思う。 ・教員減少が顕著ななか、支援体制は大変だと思いますが、長期欠席者が減少すれば嬉しいです。
地域連携	・学校通信、ホームページの充実 （年間20号以上） ・地域人材等外部講師を活用した出前授業の充実（年20回以上） ・学習ボランティアの充実 ・地域行事への参加 ⇒児童アンケートによる検証	○地域の特色である“鯨船祭り”や“おおくす”を題材とした郷土学習を中学年の教育課程に位置付けている。 ○まちづくり協議会、ＰＴＡ、学校が連携協力し、地域行事を行うことができた。 ○みまもり隊やﾎﾞﾗﾝﾃｨｱの方々と協力しながら取組を進めることができた。 ●地域行事へ参加する児童の更なる増加。 ⇒「地域の行事に参加している」69.0％ ●ホームページについては、もう少し工夫ができたと思われる。 ●出前授業（出会い学習）も定着してきたが、見直しを図っていく。	・郷土学習（鯨船祭り、おおくす）については、今後も継続して取り組んでいく。 ・みまもり隊の登下校の見守り、各行事や授業でのﾎﾞﾗﾝﾃｨｱについては、今後もご支援をいただきながら進めていく。 ・地域行事に関して、学校ではＰＲに努め、参加を促していく。 ・出前授業（出会い学習）も回数等の目標値は達成したが、新たなものも含め見直しを図っていく。	・子どもたちの興味を引くが行事が必要かな。（家庭、学校と連携して） ・大勢の方が、みまもりたいや学習ボランティアとして協力してもらえるのはありがたいことだと思う。 ・地域の郷土学習を通して地域の素晴らしさを知り、地域行事はたくさんの子どもたちが参加してくれることを期待します。 ・現状、出前授業はいくつの学科があるのですか？見直しの範囲についても伺いたい。 ・「子ども会」の減少で、参加できる地域行事が減少しているなか、学習ボランティア等で地域住民との交流が増えることは良い活動である。 ・まずは、長太のことをよく知り、学ぶことが大切である。そうすることによって鈴鹿市、三重県、日本と、自分の生まれ育った所への愛着を育めたら。 ・地域行事に協力的な対応をしてくださりありがたく思っています。もっと多くの子どもたちに参加してもらえるようにお助けいただきますよう、次年度もよろしくお願いいたします。 ・学校やPTAのみなさんがまちづくり協議会や公民館の活動に積極的に協力してくださることに感謝申し上げます。小学校の近くに公民館がある好立地条件を活かし、子どもの居場所づくり、親子の体験の場づくり、地域住民との交流の場づくりを小学校と地域が一緒になって進めていきたいと思います。 ・核家族や共働きが当たり前となってきている今、高齢者と触れ合う機会を増やし、子どもたちの学びにつながればと思う。 ・出前授業では、伊勢湾台風や戦争の話が聞けるものがあれば良いのでは。
非認知能力育成	・自己肯定感を高める。 ［綴り方の発表での取組］ ・社会性のを高める。 ［学校行事や対話的な授業］ ・学級づくり、仲間づくりの人権教育校内研修の充実（学期に１回） ⇒児童アンケートによる検証	○綴り方の発表や紹介の時間に重点を置き、周囲の人からの共感を受けることが自信を深め、自己肯定感を高める取組ができた。 ⇒「」自分には得意なことや良いところがある」91.6％ ○人と協力して何かをやり遂げるという経験をさせることを意識した学校行事や授業づくりに取り組めた。 ⇒「人が困っているときは進んで助ける」90.5％ ○学期に１回の人権ﾚﾎﾟｰﾄ研修を通して学級づくりや仲間づくりの実践に役立てることができた。 ⇒「ｸﾗｽの友だちは私の良いところやがんばりを認めてくれる」86.9％ ⇒「友だちの気持ちを考えて行動している」90.4％ ●いじめに対して、だめだという認識を100％にする。 ⇒「」いじめはどんな理由があってもやってはいけない」98.2％	・綴り方に取り組み、非認知能力の育成を図る。 ・対話的な授業を通して「やりぬく力」、「社会性」を育む。 ・学校行事を通して「自己肯定感」、「自制心」を育む。 ・人権学習の充実を図るとともに、教職員の人権意識を高めるため積極的に研修会等へ参加する。 ・学校通信やホームページを活用して、保護者にも非認知能力（特に自己肯定感）を育む接し方等啓発していき、家庭、地域、学校が一体となって非認知能力の育成に取り組む。	・「探求学習」的要素のあることへの取組を増やしてはどうか。 ・一人ひとりの違いに目を向け、その子の良いところ引き出すことは、先生方の力量が一番問われるところ。また、児童アンケートを見る限り、いじめを許さない雰囲気づくりができている。 ・今後も「綴り方」の取組をお願いしたいです。そして学校だけでなく、家庭でも「自己肯定感を高める接し方」として保護者の方にも取り組んでもらってはどうでしょうか。 ・非認知能力の育成は、難しい課題であると思いますが、とても意欲的に取り組んでいます。綴り方にプラスして新たな取組にも着手してみてはどうか。 ・他人から習うことの大切さを知る。⇒感謝の気持ちを育む。 ・教育の中にいじめをなくす意識を育てることは大変良いことだと思います。 ・「綴り方」はとても良いと思う。これからも続けてほしい。 ・困っている児童だけでなく、先生方のお手伝いも自発的に行える児童が多い。とても良い環境ができているのではないか。 ・アンケート結果を見ると自己肯定感も高く、人権意識も育っていると思います。引き続きお願いします。今後は家庭においても実践できるよう保護者への資料配布や研修会等の開催についても検討をお願いします。 ・多様性が求められる時代であるにもかかわらず、日常生活では同調圧力の強さを感じています。人との関係性の中で生きづらさを感じている児童に対して、どのような関りが大切なのか私たち大人も考えていきたい。 ・自分を客観的に見ることや協調性の大切さを知ることはとても大切。クラスで自分がどう人の役に立てるか、助けてあげられるかを考える良い機会になったのではないか。 ・「いじめはダメ」は分かるが、「どこからがいじめか」がわからない子どもが多いように思う。「人が嫌がることはしない」「自分がされて嫌なことはしない」と考えられるようになればいいと思う。
働き方改革	・一人あたりの月平均時間外労働時間 ☛30時間以下 ・60分以内に終了する会議の割合 ☛70％ ・定時退校日に定時退校できる職員の割合 ☛80％	○昨年同月（12月まで）と比較して－6.1時間。12月現在では27.9時間と30時間を下回ることができた。 ○定時退校できる職員の割合は81.5％と目標値は上回ることができた。（12月現在） ●60分以内に終了する会議の割合は達成することは出来なかった。（12月現在53.0％） ●定時退校については、12月現在では目標値を上回っているが、定時退校について今後は、90％は目指していきたい。	・業務や行事の見直しを図っていく。 ・全職員で行う職員会議が60分以内に終了できるよう、職員会議の事前に行う企画会議や二部会の見直しを図る。 ・平日の“記念日休暇”を年１回取得する。 ・定時退校については、定時退校日を今以上に早く事前に伝え、業務を計画的に進め、定時退校できるように努める。 ・各個人の各月ごとの時間外労働時間を見える化し、年360時間を超えないという意識を高める。	・教員離れを防ぐとともに教員数の増加。これには国が動かなくては。 ・会議の短縮については、事前の手続きが大事だと思う。例えば、議案書や資料を3日前に配付しておくとともに、そこに確認事項や論点を明示しておく。疑問点や意見があれば、前日までに、司会に提出するなど出席者の協力が必要だと思う。まだ、薄暗い早朝から車が停まっている。「ご苦労様」と言いたくなる。 ・先生方には働き方改革に取り組んでいただき、先生方の家庭や家族も大切にしてほしいです。 ・人員の問題が一番だと思いますが、ICTの活用などで時間を生み出し、子どもたちによりていねいに関われるようになるといいですね。 ・教育者の立場は大変だと思います。行政からの要望も様々ある中で児童、保護者への配慮等、働き方改革は無理なところにあるように感じます。先生方にがんばっていただきたいと思います。 ・数値目標を掲げることは、わかりやすい取組ではありますが、その達成のために仕事の持ち帰りやサービス残業が増えることのないよう取り組んでください。先生方の生き生きとした姿を見て、子どもも元気になると思います。 ・職員の定時退校がいちゃくしてきたら、教頭の勤務時間の縮減を目指してほしい。